

Makuhari's Memory

『監査の意義』を学び、仲間と語り合う貴重な経験

令和8年5月14日～5月22日の9日間、「監査事務」研修を受講しました。実を言うと、異動したばかりで監査の制度も実務もわからぬまま参加し、初めは内容についていけないか心配していました。振り返ると、班で意見を交わしながら課題演習に取り組み、発表まで無事に終えられたことは非常に有意義なものでした。

研修当初、講師から監査に対するイメージについて聞かれ、多くの受講生がマイナスの印象を持っていると回答したのですが、その理由としては、監査は誤りやミスを指摘するものという印象が強く、嫌われ役だと受け止められていたためです。監査事務に従事する私たちですら監査について良い印象を持てずにいる中、本研修は監査の持つ意義を再認識し、知識面だけでなく、意欲や熱意にも良い影響を与えるものでした。

講義で特に印象的だったのは「監査は人が大事。一人ひとりが知識を学び実感し、少しでも持ち帰り行動に移すこと。限られた時間の中で何をやるのか、しないのか選択すること。そして相手の話を聞き、言語化することが極めて

重要」という塩塚講師の言葉でした。監査とは単なる粗探しではなく、指摘を通じて職員や組織の能力向上を目指すものであることを理解するとともに、講師のひとつひとつの言葉が心に響き、最終的には私たち全員の監査に対する意識が変わったのではないかと思います。今回の学びとご縁を大切に、今後の監査事務に励みたいと考えています。

最後に、快く送り出してくれた職場の皆様、共に語り合い学んだ受講生の皆様、そしてアカデミーの皆様、講師の皆様に、心から感謝申し上げます。



鈴木 綾子

大阪府守口市
選挙管理委員会事務局（兼）
監査委員事務局主任
〈受講科目名〉
監査事務
第40期第1組（令和8年度）